

【ふれあい交流活動】

①1.私立幼稚園との交流

人と関わる経験を増やし、職員の資質向上につなげる。内容は相互訪問交流（園庭遊び、雪山遊び等）

2.小学校との交流

目的は小学校への親しみや関心をもたせる。内容は授業体験、発表会の見学、相互訪問交流

3.老人福祉施設との交流

目的は幅広い世代との交流から豊かな経験をする。内容はクリスマス時期に訪問し、プレゼントを持参し遊戯披露

②1.私立幼稚園との交流

経緯は小学校へ行ってからの友達作りのきっかけを作ることから始まった。成果は保育園以外の友達との関わりが増えた。

2.小学校との交流

経緯は小学校への不安の軽減と期待をもたせる。

3.老人福祉施設との交流

経緯は幅広い世代と関わる経験を増やす。成果は訪問により喜んでもらった。

【中学生とのふれあい交流】

①この取組は、中学生の家庭科の授業の受け入れ先として、当こひつじ保育園が選ばれた事で始まりました。クラスごと1クラス35名~40名の受け入れという事と、中学生と当園児童との大きさや年齢差を考え交流内容に悩んだり、保護者の理解を得られるか等たくさんの課題がありました。中学校や保育園で感染症が流行した場合は、連絡を取り合い延期にした事もありました。

②最初は、1つの中学校の教頭先生の依頼からはじまりました。今では2つの中学6クラスの中学生と交流をしており、当園の児童も大喜びです。最初の悩みだった活動内容もクラスのカリキュラムに合わせ、中学生を6~7人入れる事で、安全で自然に交流ができるようになりました。中学生の中には、当園の卒園児もおり懐かしんでくれます。交流の感想では「結婚がしたくなった」「子どもは思ったよりかわいい、子どもが欲しくなった」「子どもの頃お母さんと、保育園に通っていた事を思い出した。」「小さい時とてもかわいがられていた事を思い出した。」「保育士になりたいくなった」等の感想をもらい、とても良い交流ができていると実感しています。交流も今年で12年目となり計1500名以上の中学生が来園してくれました。

【認定こども園との交流会】

①園児や地域住民とのふれあいによって、利用者様の「生きがい」や「QOLの向上」に繋げる、又、地域住民に対し、事業所や地域に住んでいる高齢者への理解を推進することを目的としている。

②デイサービス事業所として年間4回開催している交流会を、現在では併設しているケアハウスの利用者様も参加し、様々なレクリエーションに取り組まれることで、利用者様の「生きがい」となっている。

【医療法人訪問】

①保育園児による高齢者との交流を実施

②高齢者との交流により、お年寄を大切にする心が育まれた。

【いずみ子ども会】

①いずみ子ども会は地域の子育て家族やひとり親家庭の児童などを対象にして、子どもが見て楽しめかつ子どもの情操を育む名作アニメ等の上映会を実施するとともに、当該児童間及び入所児童との交流を図ることを目的に立ち上げました。

②いずみ子ども会では今までに2回の映画上映会を行い、それぞれ50名程度の児童や保護者の方などに参加していただきました。上映会では無料でジュースやおやつを提供し、大スクリーンで映画上映を行っており、参加者からは「映画みたいで楽しかった」等の声をいただいております。また、子どもや家庭間での交流の場としても活用してほしいと考えており、今後は映画上映以外にも交流会などを企画していく予定です。

【地域の小学校との交流】

①この取り組みは、世代間交流、施設や介護について理解を深めてもらうために実施しています。

施設から相談員が小学校を訪問し、施設の紹介や介護について一時間半程度お話をさせてもらい、後日施設見学に来てもらって交流するものです。

②6年前より総合的な学習の一つとして小学校から依頼があり、世代間交流で施設に訪問してもらっていましたが、現在は、毎年1回小学校に職員が訪問し、施設の紹介や介護についてと、福祉用具の使い方などを説明し、その後施設を訪問してもらい、各個人で課題を作成し、訪問時に課題を確認していく内容となっています。

学びの場に介護が入ることで、介護職を目指してくれることを期待して、興味をもってもらえるように車椅子や歩行器を実際に使ってもらい、高齢者、障がい者の方と自然と交流できるような工夫をしています。子供たちは個々に課題を作成し、積極的に質問してくれています。

【障がいについての学習会と交流会】

①町内の小学校へ職員が講師として訪問し、障がいについての授業を実施。更に後日、施設に来園して頂き、利用者と一緒にしいたけ採取やスロットボールゲームを行い、交流を図って頂いている。

この取り組みは、障がいへの理解推進と将来福祉の担い手を育てる目的から取り組んだ。

②地元唯一の障害者支援施設として、障がいについて地域の小学生に理解してもらう機会を作りたいと考え、町内の小学校を直接訪問し、協力や理解を得られるようになった事から始めた。(授業 1 日と交流会 1 日の計 2 日実施)

今現在もこの取り組みは継続しており、子供や保護者から支持を頂いている。

社会福祉法人 わかば会 上富良野町

【老人ホーム慰問 啓発音楽パレード参加】

①年2回町立の老人ホームに、春は鯉のぼりをもって、秋はお遊戯を披露して、お年よりに見ていただいております。核家族が多くなり、老人との接点を大切にしたい事、高齢化が進み、お年よりにも認定こども園の子供達のエネルギーをわけてあげる事により、お互いに喜びをわかちあう目的（3歳～5歳児）、又毎年町の啓発音楽パレードに4、5歳児鼓笛隊が参加している。

②老人と接点をもつ事により、心やさしい子供達に育ててもらいたいため、毎年歌に手遊びをつけて、一緒に歌ったり、手遊びしてもらったり工夫している。この活動は20年以上続いている。

「町を明るくしよう」と小さな時からの教育が大切と実施。子供達も町民が見てくれる喜びも有る。

【地域住民、子ども達、介護保険施設利用者との交流】

①施設を地域に開放して地域住民、子ども達、入所者家族とレクリエーションを一緒に行うことにより、ふれあいを通じて交流、相互理解を深めることを目的とする。

昭和63年度から地域交流を目的として年1回開催。当初は、入所者・家族・地区小学校を招き参加型の内容を行っていたが、入所者の重度化により観覧型のレクリエーション会（アトラクションの実施、じゃんけん大会、露天コーナ）へ移行。

入所者家族との交流を基本とし、グループホーム利用者、口コミで訪れる児童等との交流が中心となった。

平成30年度より、地域との結びつきを更に強め、より開かれた施設を目指すため地区町内会を招き事業を行った。

②アトラクションショーを楽しんでいただき、じゃんけん大会に参加した方々同士が交流を深めることができた。

地域の方から来年も招待してほしいとの声が多くあり、地域との距離感が近くなることが期待できる。

また、地域女性団体の方より、慰問、ボランティアの依頼があり連携も深まった。

地域高齢者、児童、グループホーム利用者などが一緒に参加することにより心身の活性化ができた。

今後も毎年、7月の第1日曜日の開催を固定し、地域の行事としても継続できるように取り組むとともに町内会等への周知も徐々に拡大し過疎化が進む地域の交流の場としての役割も果たしていきたい。また、高齢者の外出する機会、人とふれあう機会としてサポートすることにより孤立感の解消など地域福祉に貢献していきたい。